平成２３年度　第二学期　始業式　校長の話

平成２３年８月２９日（月）

みなさん、おはようございます。

今年の夏は、例年以上に暑く、熱中症も多く、大変だったようですが、秀峰生は、充実した夏休みを過ごしたと言えると思います。

秀峰生がどれだけ頑張ったか、夏休みを少し振り返ってみます。

・コンピュータ部が、夏休み直前の九州・沖縄大会ＩＴ部門で、団体第３位となり、全国の優秀賞を獲得しました。個人でも準優勝という素晴らしい成績でした。また、７月末に行なわれた全国高校情報処理競技大会でも優良賞を獲得するという活躍でした。また、応用情報技術者試験に、３年経営情報科の黒木琴海さんが合格するという快挙もありました。
・福祉科１年生４０名が、１４の特別養護老人ホームや介護老人保健施設に分かれての初めての校外実習を７月２５日から４日間、実施しました。どの施設でも、本校生が笑顔で対応し、一生懸命働いていると好評でした。
・バレーボール１年生大会で、本校男子が準優勝しました。少ない部員で良く頑張ったと思います。
・建築環境部７人が、市内の施設（細野の緑町ショートステイセンター）内に７月下旬から８月４日までの期間に、「壁画で地域に恩返し」の気持ちで壁画を描きました。
・ボランティア同好会（３６名）を中心に、各種施設の夏祭りや小林「名水夏まつり」などで、積極的にボランティア活動を行ない、多くの方々に感謝されました。
・そして、大震災のあった北東北全国高校総体での、本校生の活躍がありました。新体操部は、８月１日の団体演技で、堂々の４位入賞を果たしました。男子ハンドボール部は、８月３日の決勝戦で、茨城県の藤代紫水高校を３０：２４で破り、念願の初優勝を果たし、多くの人々に感動と元気を与えたと思います。多くの方々から、電話、電報、メールやお祝いの言葉をいただきました。それだけ、秀峰に寄せる思いの強さを感じたところです。（女子ハンドボール部も頑張りましたが、初戦敗退でした。今後に期待します。）
  ・新体操部の演技を見た他県の保護者「礼儀正しく、素晴らしい。」
  ・ハンドボールの試合を応援してくださった富山県の経験者
    「おめでとうございます。素晴らしいプレーを見せてくださって、大変ありがとうございました。プレーに男惚れしました。」

このように、頑張って来たことの中で、何より嬉しかったのは、あいさつやマナーなどがしっかりしており、感謝の気持ちを常に持った「日本一の人間力」を培ってきた秀峰生が活躍したことでした。

＜新体操部に関しての新聞記事では＞

全国制覇を逃した小林秀峰の真価は閉会式で発揮された。4位の悔しさを胸にしまい、 胸を張って堂々と行進。40分間の式典中、ずっと背筋を伸ばしていすに

座り、凛(りん)とした表情を浮かべた。他チームをしのぐ立ち居振る舞いに、永野護監督は、「徹底的に指導してきた礼儀作法が身に付いていた。負けて残念だけど、 うちの良さが出ていた。」 と誇らしげだった。

＜ハンドボール部に関しての新聞記事では＞
「破己立命（はきりつめい)」・・・本校男子ハンドボール部監督のポリシー
『大勢の人と関わる中、自ら考えて動くことで己の殻が破られる。』という意味
　　試合後、選手たちは「優勝は支えてくれた人たちのおかげ」と口をそろえた。彼らの原動力は感謝の気持ちにあり、「プレーで恩返ししたい」という考えが、己の殻を破り、日本一につながったと思う。

さらに、選手たちが、すばらしい話、言葉を発しています。
・新体操部の青屋主将
　「楽しむことができた。悔いはない。応援してくれた観客や支えてくれた保護者、指導者に心から感謝したい。」とすがすがしかった。
・ハンドボール部の荒木主将
　「最高の仲間。一生の宝になる。」
・ハンドボール部の津山弘也君
　「秀峰でハンドを通じて感謝する気持ちを一番に学んだ。プレーで恩返しができたと思う。」

そして、さらに、ハンドボールの三松小スポーツ少年団の菊村監督が言いました。
　「選手たちは、高校入学当初から全国制覇を口にしていた。有言実行を果たし、本当に素晴らしい。」

覚えていますか。第一学期終業式で、「有言実行」であってほしいと話したことを。そのことをハンドボール部が実践したということです。すなわち、みなさんには、「日本一」を目指して、有言実行していくことで、その夢を実現できるだけの能力を持っていることをはっきりと示してくれたことになります。

今回のハンドボール部の全国制覇は、本校のみなさんにとって「誇り」であると同時に、みなさんにとっての「自信」にもつながっていくと思います。

「日本一」が身近にいるからこそ、誰もが「日本一」を目指し、そして、学校が「日本一の総合制専門高校」を目指していると日頃から話し、みなさんも「秀峰ブランド」確立に向けて、頑張ってきていると思います。

この機会に、さらなる自己の向上と高校生活の充実を目指して、頑張ましょう。「有言実行」の姿勢で「やるべきことをしっかりやる」第二学期であってほしいと思います。